



2025年11月25日
第081号

JR 東労組 Yokohama



JR東労組横浜地本
発行人 梶田優一
編集情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



原子力艦事故避難訓練2025

2025年11月22日(土)、「東京湾の原子炉から首都圏を守る会」主催による「原子力艦事故避難訓練2025」に横浜地本からも参加してきました。これは、千葉・東京・神奈川に属する「9条連」の仲間たちが東京湾に存在している在日米軍の原子力艦の存在を世の中に警鐘するために結成された「東京湾の原子炉から首都圏を守る会」が呼びかけを行っており、今回で12回目の開催になります。

原子力発電所と同じものが、私たちのすぐ近くの東京湾に入港していることを考えたことはあるでしょうか。横須賀港には放射線測定のモニタリングポストが10箇所あると言われています。それだけ、危険な物が身近に存在しているということです。



訓練開始前に、横須賀の産業交流プラザの研修室に集合し、呉東正彦弁護士による「原子力艦船の現状」と新倉裕史氏による「横須賀の活動について」のご講演を聞き、神奈川県横須賀の置かれた状況や米海軍の原子力艦の今を知り、避難訓練に活かしてきました。

今回の避難訓練の想定は

- ・横須賀港に入港している原子力潜水艦が、横須賀基地内で原子炉事故を引き起こした。
- ・放射能が外に漏れてしまっている。風向きは海からの南風が吹いている。

⇒という想定で行いました。そのため、産業交流プラザから徒歩で市役所方面に向かうものです。



避難訓練当日は三連休の初日でもあり、多くの歩行者や道行く横須賀市民がいました。避難訓練を行いながら原子力艦が東京湾に存在していること、もし事故が発生したら、三浦半島全域を始め、多くの地域が危険に晒されることなどを訴え、ビラ配布も行ってきました。

東京湾に浮かぶ「原子力艦」危険な存在であることを知り、事故が発生したらどうするか考えよう！